令和４年度　学校評価　自己評価結果等

本年度の重点目標	・生徒の自己有用感･自己肯定感を高める教育活動を推進する。 ・指導と評価の一体化を一層推進し、指導の質を高める。 ・質の高い教育を維持しつつ、教職員の多忙化解消に向けて取組を進める。		
分掌名	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	・ＰＴＡ事業のあり方を再確認し、よりよいＰＴＡ活動を目指す。 ・自主的な防災者としての意識を涵養する。	・保護者への情報提供、交流という視点で、役員会等でＰＴＡ事業について検討する。 ・現実的な条件を加えて防災訓練を行う。	・交流を広めることはコロナ禍では難しかったが、情報提供に関しては本校ＨＰにＰＴＡページを新設したことが成果である。 ・雨天であったが、分散しての点呼訓練が新たに実施され課題も見つかり成果があった。
教務部	・基礎的基本的な知識の定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ・新教育課程に関わる評価の在り方について研究する。	・生徒一人一人の特性を理解しながら、計画的に学習し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。 ・教科間で連携を取りつつ、評価の観点を整理し、具体的なものが作り上げていけるようにする。	・２回の「生徒による授業評価」を通して、授業改善に努めることはできた。生徒一人一人が計画的に学習し、主体的に学ぶ姿勢を育てるための方策を、分掌や学習委員会で考えていく。 ・教科主任会や教科会で評価方法に関する話し合いを行うことはできた。今後は、さらに話し合いを深めていくとともに、実践の蓄積をしていく必要がある。
保健部	・学校内の環境を整備し、生徒が安心快適に学校生活を送ることができるようにすると共に美化委員会の活動を活発化させる。 ・教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送り、悩みなどを気軽に相談できる雰囲気をつくる。	・清掃状況を美化委員が点検して状況を把握し、環境美化への意識を高める。清掃コンクールを実施し教室環境の優秀なクラスは表彰する。 ・各委員会やＳＣ等との連携を密にし、個別の支援が必要な生徒には迅速に支援チームを立ち上げる体制を常時整えておく。 ・教育相談室を生徒が気軽に来室できるように整備する。	・美化委員による点検活動は実施できなかった。学校全体での環境美化への意識向上について今後も分掌内で考えていく。 ・個別に支援が必要な生徒に対して「ケース会議」を開催し、支援体制を整えることはできた。 ・教育相談室の利用者は少ないので、啓発活動を行い気軽に利用できるような体制を整える。
生徒指導部	・交通安全への意識の向上を目指し生徒が危機意識を持ち、安全に登校できる環境を作る。 ・いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員間で連携して支援できるようにする。	・交通立ち番の見直しを図る、交通安全教室の充実を進める。 ・いじめ・不登校対策委員会の充実、教育相談委員会との連携を進め、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなどの対応を迅速かつきめ細かにできる体制を常時整えておく。	・交通立ち番は見直しを図ったが交通事故報告は減っていない。具体的な方策を継続的に審議していく。 ・いじめに該当する案件はなかったため検討しなかったが、実際に起こったときに迅速に対応できるように準備をしておきたい。様々なアンケート結果や情報を保健部と共有して、連携できるといいが十分にできていないのが現状。
進路指導部	・系統的、計画的なキャリア教育を推進するとともに、生徒の進路希望の実現を目指す。	・系統的、計画的なキャリア教育を総合的な探究の時間を通じて実践するとともに、学年と連携をとり、生徒の進路実現に向けオリエンテーション、学年集会や進路だよりを利用して進路意識を高める。	・総合的な探究の時間、及びＬＴを通じて、キャリア教育を系統的に、計画的に進めることができた。 ・学年間の情報共通を密にし、前の学年の良い実践例を次の学年にも生かせるような工夫をしたい。
特別活動部	・人間関係形成能力と社会形成能力の育成を目指し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・社会の変化に、臨機応変に対応し、柔軟な発想で対応できるようにする。	・部活動や行事の活性化により、リーダーを育成する。 ・花いっぱい、地域美化などボランティア活動を推進し、活動参加を促す。 ・知立東のつどいなどの行事を通して、ICT活用を推進する。	・各種委員会活動は昨年度より活発に活動した。特に生活委員会のあいさつ運動（年２回）や１年生の対外的な福祉実践活動では成果を得ることができた。また、生徒会の役員と担当教諭との双方向での情報の共有は、ロイロノートを今後ますます活用できるように整備し、実際に後期から活用を始めた。校則などの変換期なので、生徒指導部と連携をとり、時代に即した活動ができるよう配慮していきたい。
図書研修部	・図書館及び情報機器利用の推進のために教科や学年との連携を進め、豊かな人間形成を目指す。 ・現職研修を活性化して職員間の相互理解を促進し、教員の専門性を高め、教育技術の向上を図る。	・図書館企画により、本への興味を喚起し、来館者数や貸し出し冊数の増加を目指す。 ・公開授業週間で職員が研究授業や授業参観を積極的に行えるようにする。 ・生徒用タブレットやBYODの導入を通じて、情報化を推進する。	・貸出冊数は、1,3年生が昨年より増えたため、12月現在で昨年と比べると百冊ほど増加した。 ・あいちラーニング推進事業と研究授業週間をリンクさせることで、研究授業の参観者数や事後指導の質を向上させることができた。 ・生徒用タブレットの導入は、近隣校と比較しても比較的スムーズにできた。生徒利用の利便性を高めつつ、より多くの先生に授業で積極的に活用してもらうための方策を研究していきたい。
１学年	・学校における基本的生活習慣の確立を図る。 ・高等学校の学習を始めるために必要な基礎・基本を身に付けさせる。	・挨拶をしっかりとさせる。 ・５分前集合を基本とし、時間を守らせる。 ・提出物の期限を守らせ、出し切らせる指導をする。	・高校生としての基本的な生活習慣を身につけ、自分の行動が周囲に与える影響を考えながら行動することができた。 ・ICT機器を活用した学習活動を行い、個に応じた学習を進めることができた。
２学年	・学習に対する高い意識をもたせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・学校の中核を担う学年であるという意識をもって行動させる。	・具体的な進路目標をもたせるためにきめ細かく指導する。 ・日々の学習に対するアドバイスをする。 ・学校行事や部活動に積極的に参加させる。	・自分の進路決定に向けて、主体的に考え行動する力を身に付けることができた。また、修学旅行を通して集団の中で自分の役割や周りとの関わり方などを学ぶことができた。 ・部活動や学校行事の中で、中心となってまとめることや引っ張っていくことができるようになってきた。
３学年	・進路目標実現に向けて、高い目標をもち最後まで努力を続けさせる。 ・学校の中心としてどう動くべきかを常に考えさせる。	・個別面談等で、モチベーションを保つための声掛けや、アドバイスをこまめに行う。 ・定期的にリーダー会を開き、心構えや行動を考えさせる。	・きめ細やかな個別面談を実施し、自分の進路実現に向けてしっかり取り組むことができた。最後まで学年全体で受験を乗り切る雰囲気を作り出すことができた。 ・つどいなどの学校行事を通して、人を動かすために必要な素養を養うことができた。
総合評価	本校は、地域住民の方や中学校から進学校として一定の評価を得ている。これに加えて、高校卒業後に更に力を発揮できる生徒を育成するために、自己有用感・自己肯定感を高める指導を進める必要がある。本校の卒業生が地域で活躍することにより、本校に対する評価がより高められ、そうした卒業生の姿を見せることが、在校生の自己肯定感をより高めることにつながる。地域から信頼される高校に通学する生徒としての誇りを高める指導を継続したい。		